

ごあいさつ



経営管理委員会会長

竹村 敬三



代表理事理事長

川崎 宏

平素は、私ども滋賀県信用農業協同組合連合会（愛称、「JAバンク滋賀信連」）に対し、格別のお引き立てをいただき誠にありがとうございます。

このたび、当会への理解をより深めていただくために、令和2年度版ディスクロージャー誌を作成いたしました。ご一読いただければ、幸いに存じます。

日本経済に基大な打撃を与えた新型コロナウイルス感染症の流行拡大は、令和2年度末時点においても収束に至っておらず、依然として、経済活動全般が停滞を余儀なくされている状況です。また、金融情勢については、コロナ禍を受けて、当初は日経平均株価が低迷するなど落ち込みが顕著だったものの、その後の政府・日銀による財政出動や金融緩和等を背景に一転して上昇基調に転じ、一時は日経平均株価が約30年ぶりの高値をつけるなど、異例の展開となりました。

そのようななか、コロナ禍を踏まえた新しい生活様式の浸透から、取引の非対面化やキャッシュレス化が加速するなど、金融サービスは変革期を迎えようとしています。

さらに、農業情勢に目を向けると、我が国の農業は、人口減少・少子高齢化に伴う農業生産基盤の弱体化等のほか、今般のコロナ禍の影響で、先行き不透明な状況が継続しています。一方で、情報通信技術（ICT）の革新に伴い、ドローンや自動農機を活用したスマート農業の実証が進むなど、農業も大きな変化を遂げようとしているところです。

こうした状況のもと、JAグループでは、コロナ禍の影響を受けた農業者への支援に引き続き最優先で取組むとともに、様々な経営環境の変化に適応しながら、社会が求めるサービスを提供していくことが重要な課題と認識しています。あわせて、人口減少等の構造的課題の克服に向けて、持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向けた取組みを一層推し進めているところです。

さて、令和2年度は、第15次中期経営計画（令和元年～3年度）の2年目として取組みました結果、当会におきましては所期の目標を上回る成果をあげさせていただくことができました。このことは、ひとえに会員ならびに利用者の皆さま方の絶大なるご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

引き続き、目標必達に向け、役職員が一丸となり取組んでまいりますので、皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年7月